

提携米通信

2011年9月号・黒瀬農舎



3人の孫：悠真・花穂・志穂

3人目の孫が生まれました。

今年のお米作りも終盤戦に入ってきました。先月までにお知らせしたように今年の天候は、種蒔き以来低温など最悪の天気が続き稲の生育は非常に悪い「不作年」の様相でした。

でも、7月10日頃から、予想外の好天が到来して、お盆頃には、今までの生育遅れを取り戻してくれました。

現在の状況は、台風の被害さえなければ平年作は間違いなさそうです。

また、新米の出荷は、今後の天候によって

変動しますが10月上旬の見込みです。

ところで、ブナツアーの時お腹が大きかった息子・友基の妻「恵理」が数日後無事に女児を出産しました。その後も母子共にすこぶる元気で「志穂」と名付けました。

これで、我が家の孫は、長男「悠真」(4歳)長女「花穂」(2歳)と合わせて3人となり、数年前までの2人暮らしから急に賑やかな7人家族になりました。

妊娠出産育児期の家族があると、原発放射能問題はことのほか気になり、福島などにお住まいの皆さんはさぞご心配だとお察しお見舞いする次第です。

放射能問題は、何度かお伝えしたように、当地は原発事故地から300Km以上離れており、また、西高東低の冬型気圧配置の時期だったことに助けられて、首都圏各地よりも当地秋田は、格段に汚染が免れたようです。

しかし放射能の飛散は状況によっては風に乗って遠くまで届きます。旧ソ連のチェルノブイリ事故の時にはヨーロッパ全域が汚染された上、日本各地も影響を受けました。

このような過去の状況を考えると「事故地から遠かったので秋田は全く心配いらない。」と不用心な対応では、安心できるお米をお届けしている者の責任が果たせないと強く思っているところです。

このため、秋田県をはじめ、種々の機関が行っている放射能検査のデータに目を通すようにしていますが、幸い今まで問題視する検査結果は出ていません。

また、新米出荷に際しては、念のため我が農舎の玄米のセシウムなどの残留検査を行いお知らせするように準備しております。

提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・友基

Tel 0185-45-3088

Fax 45-2887

E-mail : akita@kurose.com

HP検索 :

黒瀬農舎



☆夏の疲れが出る時期です。お身体に気を付けてお過ごし下さい。
十月下旬には、お餅などの予約案内を郵送します。ご利用下さい。

黒瀬農舎のお米の放射能についての対応

黒瀬農舎の放射能への考え方や対応についてももう少し触れておきたいと思います。

今回の事故で、事故地の近隣や風下などは恐ろしいほど汚染しているようです。

放射性物質は種類によっては、風に乗って遠くまで飛び、事故地周辺に比べれば格段に少ないといっても汚染・被曝は地球規模にまで及びます。

また、放射能は、体内に取り入れても発症するまでに排泄すれば良いという一般的な他の毒物などとは異なり、被曝によって遺伝子が傷つき、ガンなどの発生をもたらすというやっかいな性質があります。

従って、被曝はゼロが望ましいですが、自然界にも微量にはあり、また、核実験やチェルノブイリ事故の汚染が日本各地にまだ残っていますから、被曝ゼロは現実上あり得ないのが実情です。

でも、野菜など 500 Bq/Kg (ベクレル) 許容している国の暫定基準や、原発推進派学者が「レントゲンと同じだ。神経質になる必要はない。」などの発言は乱暴だと感じます。

要は、「恐ろしい、恐ろしい。」と極端におびえたり、逆に、原発推進派や官房長官発表のように「直ちに人体に影響はない。」などと乱暴ではなく、放射能被曝をできるだけ避けるように、科学的なデータを見ながら現実的で冷静な対応が必要です。

このような観点で、すでに我が農舎のHPに掲載していますが、それ以外についての当地や当農舎の現状と今後の対応を次に列記しておきます。

- ① 3月の月間放射性降下物のセシウム合算データを見ると、当地秋田は69。東京(新宿)16600、千葉9300、静岡1090(MBq/km²)となっており、当地は事故地から風上に300Km離れており、被曝は極端に少なかった地域で、新米への残留の心配はなさそうです。
- ② また、地域に降下した放射能は、その地域の下水汚泥に驚くほど集積されます。
 - 半減期が長いセシウムの焼却灰検査データを紹介すると、秋田県雄物川広域下水道では、Cs134は110Bq/Kg。Cs137は100Bq/Kgでした。(6月21日採取測定値)
 - これに比し、東京都はCs134は1000~2000Bq/Kg。Cs137は1200~2300Bq/Kgでした。(6月20日前後の採取測定値。東京都は低い値が清瀬、高い値が葛西)この下水データは、処理量による差を無視した単純比較であり一つの目安に過ぎませんが、月間降下量とほぼ同傾向であり、秋田は東京都に比べて、100分の1から200分の1と極端に低く、お米も安心できると推察しています。
- ③ 一方、原発事故以前も、1960年代の米ソを始めとした核実験などの影響を受けており、1960~80年頃までのセシウム137の計測データ(全国平均)を見ると、
 - 水田土壌で20~30Bq/Kg。最高の年は42.7 Bq/Kg。(2000年以降は6~8Bq/Kgまで減少)
 - 玄米では0.2~3 Bq/Kg。最高の年は11.5 Bq/Kg (2000年以降は0.03 Bq/Kg 前後)
- ④ ちなみにHPに掲載しているように友人が7月に当地の田圃の土壌を検査した結果はヨウ素もセシウムも不検出でした。(検出限界1Bq/Kgの精度で)

以上のことから、当地の今年度産のお米で放射性物質が検出(1Bq/kg以上)される可能性はないと思いますが、念のため新米の確認検査を行って、結果を追ってお知らせします。

なお、主食となるお米は、国の暫定基準(土壌5000Bq/Kg、玄米500Bq/Kg)ではなく、他の地域も含め玄米で20Bq/Kg以下を目標にすることが妥当だと思っております。

(ホームページでも随時検査結果などをお知らせしますのでHPも時々ご覧下さい。)